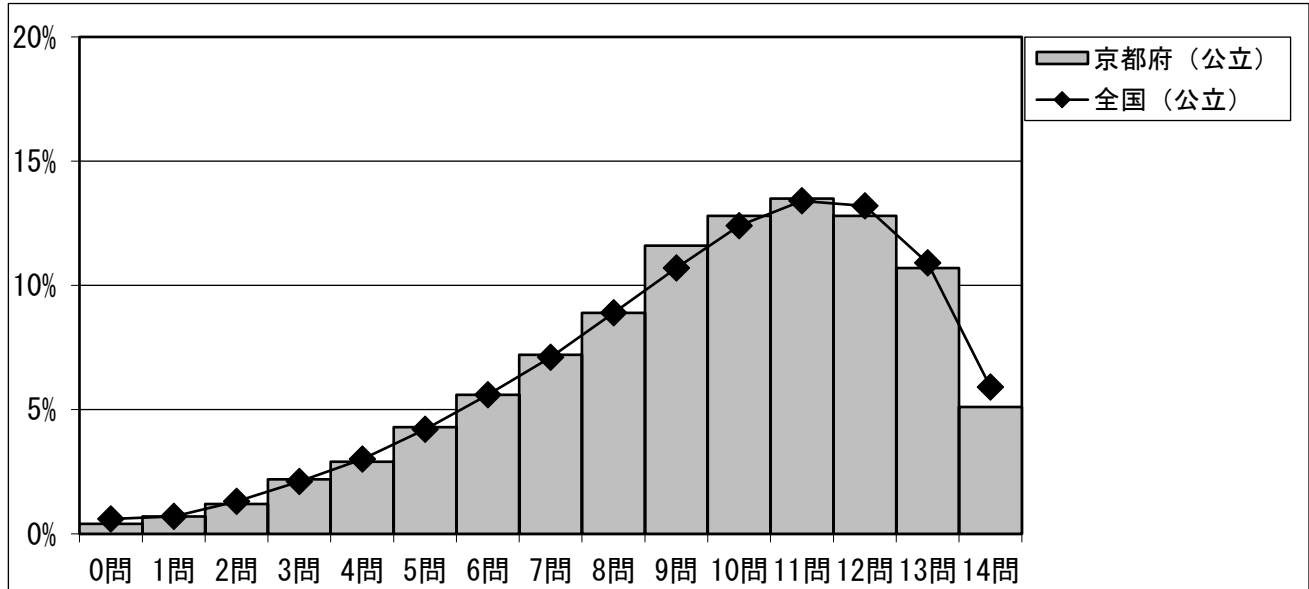


## Ⅱ 京都府における国語の状況と改善のポイント

\*すべて京都市を除く京都府のデータです

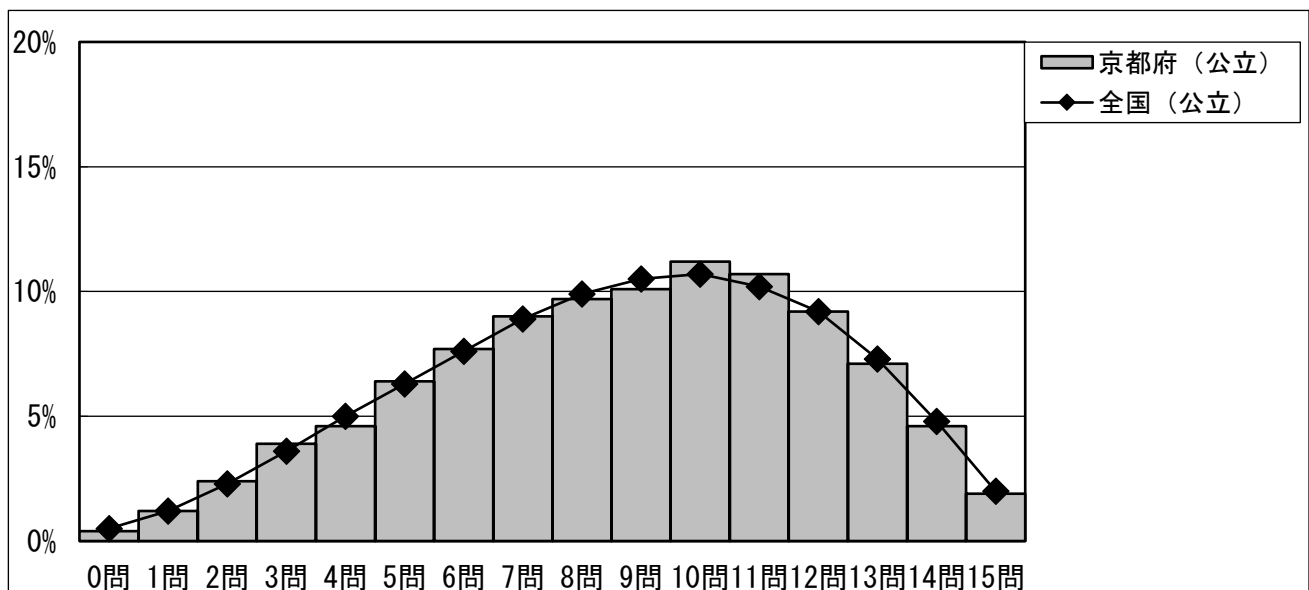
## 1 小学校国語の概要

|     | 児童数     | 平均正答数    | 平均正答率<br>(%) | 中央値  | 標準偏差 |
|-----|---------|----------|--------------|------|------|
| 京都府 | 8,859   | 9.5 / 14 | 68           | 10.0 | 3.0  |
| 全 国 | 947,364 | 9.5 / 14 | 67.7         | 10.0 | 3.1  |



## 2 中学校国語の概要

|     | 生徒数     | 平均正答数    | 平均正答率<br>(%) | 中央値 | 標準偏差 |
|-----|---------|----------|--------------|-----|------|
| 京都府 | 8,690   | 8.7 / 15 | 58           | 9.0 | 3.3  |
| 全 国 | 875,574 | 8.7 / 15 | 58.1         | 9.0 | 3.4  |



3 設問別調査結果 [国語]

小学校 [国語]

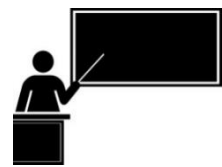
京都市を除く京都府一児童（公立）

| 集計結果    |         |        |       |
|---------|---------|--------|-------|
|         | 児童数     | 学校数    | 平均正答率 |
| 京都府（公立） | 8,859   | 196    | 68    |
| 全国（公立）  | 947,364 | 18,466 | 67.7  |

| 分類・区分別集計結果 |                |                     |          |      |
|------------|----------------|---------------------|----------|------|
| 分類         |                | 区分                  | 平均正答率(%) |      |
|            |                |                     | 京都府      | 全国   |
| 学習指導要領の領域等 | 知識及び技能         | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 64.8     | 64.4 |
|            |                | (2) 情報の扱い方に関する事項    | 87.1     | 86.9 |
|            |                | (3) 我が国の言語文化に関する事項  | 74.8     | 74.6 |
|            | 思考力, 判断力, 表現力等 | A 話すこと・聞くこと         | 59.3     | 59.8 |
|            |                | B 書くこと              | 66.9     | 68.4 |
|            |                | C 読むこと              | 70.7     | 70.7 |
| 評価の観点      |                | 知識・技能               | 70.2     | 69.8 |
|            |                | 思考・判断・表現            | 65.5     | 66.0 |
|            |                | 主体的に学習に取り組む態度       |          |      |
| 問題形式       |                | 選択式                 | 69.3     | 69.9 |
|            |                | 短答式                 | 61.3     | 59.7 |
|            |                | 記述式                 | 64.6     | 64.6 |

◇正答率が全国平均を上回っている、もしくは同率の設問が7問ある。そのうち一問を除いては正答率6割を超えている。無解答率も、全ての問題において全国平均を下回っている。

◆正答率が全国平均を下回った設問が7問あり、そのうち6割を下回った設問が2問ある。既習の漢字を文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにすることが必要である。



| 設問番号  | 問題の概要                                                        | 領域等             | 正 答 率 |      | 無解答率 |      |
|-------|--------------------------------------------------------------|-----------------|-------|------|------|------|
|       |                                                              |                 | 府(※)  | 全国   | 府    | 全国   |
| 1ー    | 学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する | 話すこと・聞くこと       | 63.6  | 62.5 | 0.6  | 0.7  |
| 1二(1) | オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する                 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 75.2  | 75.9 | 0.5  | 0.6  |
| 1二(2) | オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する                     | 話すこと・聞くこと       | 51.8  | 52.9 | 0.6  | 0.7  |
| 1三    | オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する | 話すこと・聞くこと       | 62.5  | 63.8 | 0.9  | 0.9  |
| 2ー(1) | 高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものとして、適切なものを選択する       | 書くこと            | 80.3  | 80.3 | 0.7  | 0.9  |
| 2ー(2) | 【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する                         | 情報の扱い方に関する事項    | 87.1  | 86.9 | 0.7  | 0.9  |
| 2二    | 【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く                        | 書くこと            | 53.5  | 56.6 | 4.4  | 4.9  |
| 2三ア   | 【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（きょうぎ）                             | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 43.8  | 43.4 | 10.1 | 13.2 |
| 2三イ   | 【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す（なげる）                              | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 78.8  | 76.0 | 5.7  | 8.0  |
| 3ー    | 【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する                         | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 61.6  | 62.3 | 1.5  | 2.0  |
| 3二(1) | 「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する     | 読むこと            | 65.5  | 66.9 | 1.9  | 2.6  |
| 3二(2) | 【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する         | 読むこと            | 71.0  | 72.5 | 1.9  | 2.9  |
| 3三    | 【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く                                | 読むこと            | 75.7  | 72.6 | 10.0 | 12.6 |
| 3四    | 【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する                             | 我が国の言語文化に関する事項  | 74.8  | 74.6 | 5.8  | 7.6  |

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 〔国語〕

京都市を除く京都府一生徒（公立）

中学校〔国語〕

集計結果

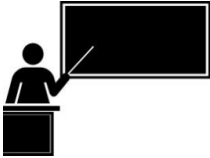
|         | 生徒数     | 学校数   | 平均正答率 |
|---------|---------|-------|-------|
| 京都府（公立） | 8,690   | 99    | 58    |
| 全国（公立）  | 875,574 | 9,268 | 58.1  |

分類・区分別集計結果

| 分類         |                | 区分                  | 平均正答率(%) |      |
|------------|----------------|---------------------|----------|------|
|            |                |                     | 京都府      | 全国   |
| 学習指導要領の領域等 | 知識及び技能         | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 59.9     | 59.2 |
|            |                | (2) 情報の扱い方に関する事項    | 59.2     | 59.6 |
|            |                | (3) 我が国の言語文化に関する事項  | 75.2     | 75.6 |
|            | 思考力, 判断力, 表現力等 | A 話すこと・聞くこと         | 58.5     | 58.8 |
|            |                | B 書くこと              | 66.0     | 65.3 |
|            |                | C 読むこと              | 47.6     | 47.9 |
| 評価の観点      |                | 知識・技能               | 62.2     | 62.0 |
|            |                | 思考・判断・表現            | 55.3     | 55.4 |
|            |                | 主体的に学習に取り組む態度       |          |      |
| 問題形式       |                | 選択式                 | 60.9     | 61.0 |
|            |                | 短答式                 | 61.3     | 61.8 |
|            |                | 記述式                 | 46.5     | 45.5 |

◇正答率が全国平均を上回っている設問が9問ある。そのうち4問は正答率6割を超えている。

◆読むことに課題がある。書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えるように指導することが大切である。



設問別集計結果

| 設問番号 | 問題の概要                                            | 領域等                  | 正 答 率 |      | 無解答率 |      |
|------|--------------------------------------------------|----------------------|-------|------|------|------|
|      |                                                  |                      | 府(※)  | 全国   | 府    | 全国   |
| 1 一  | 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する                  | 話すこと・聞くこと            | 62.9  | 63.2 | 0.6  | 0.4  |
| 1 二  | 話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む            | 話すこと・聞くこと            | 67.4  | 68.5 | 3.4  | 3.5  |
| 1 三  | 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する                  | 情報の扱い方に関する事項<br>書くこと | 42.6  | 44.0 | 0.6  | 0.5  |
| 1 四  | 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く     | 話すこと・聞くこと            | 45.3  | 44.7 | 8.6  | 9.9  |
| 2 一  | 本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する                     | 読むこと                 | 34.7  | 36.3 | 0.8  | 0.5  |
| 2 二  | 本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する                | 情報の扱い方に関する事項<br>書くこと | 75.7  | 75.2 | 0.8  | 0.6  |
| 2 三  | 本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する | 読むこと                 | 64.7  | 64.5 | 0.7  | 0.6  |
| 2 四  | 本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する               | 読むこと                 | 43.7  | 42.6 | 6.5  | 8.4  |
| 3 一  | 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する       | 書くこと                 | 81.7  | 81.4 | 0.8  | 0.7  |
| 3 二  | 物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する   | 言葉の特徴や使い方に関する事項      | 54.7  | 53.8 | 1.0  | 1.0  |
| 3 三  | 漢字を書く（みちたりた）                                     | 言葉の特徴や使い方に関する事項      | 69.5  | 68.8 | 9.4  | 10.2 |
| 3 四  | 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する                | 書くこと                 | 50.4  | 49.3 | 12.4 | 15.0 |
| 4 一  | 短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する              | 言葉の特徴や使い方に関する事項      | 55.6  | 54.9 | 2.1  | 1.8  |
| 4 二  | 短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える       | 読むこと                 | 47.2  | 48.3 | 3.6  | 3.4  |
| 4 三  | 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する             | 我が国の言語文化に関する事項       | 75.2  | 75.6 | 2.5  | 2.3  |

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題についてはセルの色を■で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を■で、表示しています

## 5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 言葉の特徴や使い方に関する事項  
情報の扱い方に関する事項  
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1二(1)〕  
〔2一(2)・三ア・三イ〕  
〔3一・四〕

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる

〔1二(1)〕(府の正答率 75.2%、全国の正答率 75.9%)

◎情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる

〔2一(2)〕(府の正答率 87.1%、全国の正答率 86.9%)

▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(きょうぎ)

〔2三ア〕(府の正答率 43.8%、全国の正答率 43.4%)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(なげる)

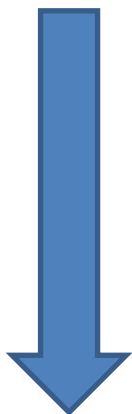
〔2三イ〕(府の正答率 78.8%、全国の正答率 76.0%)

○文の中における主語と述語との関係を捉えることができる

〔3一〕(府の正答率 61.6%、全国の正答率 62.3%)

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる

〔3四〕(府の正答率 74.8%、全国の正答率 74.6%)



### 解説

- ・〔2三ア〕について、一方の漢字のみがあっていたり、へんやつくりが同じ別の漢字を解答している児童が 46.1%見られる。漢字を書くことについては、文や文章の中で使おうとする習慣が身に付くように指導する必要がある。
- ・〔3一〕について、語句の係り方は捉えことができているが、主語と述語の関係を捉えることができず、主語は述語の直前にある言葉であると捉えた児童が 17.9%いる。主語の表し方には「～が」、「～は」、「～も」のように様々あり、主語と述語が離れて表される場合があることに留意して指導する必要がある。

### <授業改善のポイント>

- ◎ 第5学年及び第6学年は漢字による熟語などの語句の使用が一層増加する時期である。文や文章の中で、既習の漢字を意識して使用するよう指導することが重要である。

**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる

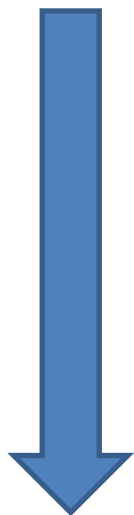
〔1ー〕(府の正答率 63.6%、全国の正答率 62.5%)

▲資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる

〔1二(2)〕(府の正答率 51.8%、全国の正答率 52.9%)

○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる

〔1三〕(府の正答率 62.5%、全国の正答率 63.8%)



**解説**

- ・〔1二(2)〕について、和田さんが相手が興味を持っていることに気付いたことは捉えられたが、用意していた実物を示しながら話したことを捉えるのではなく、「そうなんです。」と相手の話を受けとめている状況を相手の言葉を引用して話したと捉えた児童が 28.0%いる。自分の考えが伝わるように、資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心などを予想して、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を作ることも大切である。
- ・〔1三〕について、情報を整理していることは捉えられるが、複数の情報をまとめて伝えていることを捉えられていない児童が 17.5%いる。自分が伝えたいことと聞き手の求めていることに応じて情報を整理するよう指導することが大切である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)**

URL : [24plang\\_idea\\_01.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_01.pdf)

([https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang\\_idea\\_01.pdf#page=11](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_01.pdf#page=11))

- ◎ ①に登場する「和田さん」の思考の流れに沿って、目的や意図に応じ、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するという課題に応じた3つの場面を取り上げた指導事例を紹介している。



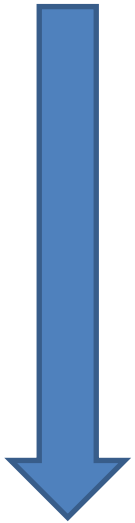
**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

◎目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる

〔2ー(1)〕(府の正答率 80.3%、全国の正答率 80.3%)

▲区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる

〔2二〕(府の正答率 53.5%、全国の正答率 56.6%)



**解説**

- ・〔2ー(1)〕については、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
- ・〔2二〕については、字数を除いた2つの条件のうち、条件②だけを満たしている児童が36.6%いる。書く目的や意図が明確でなく、「たてわり遊び」のよさの書く必要を認識していなかったり、認識していてもそこから自分の考えが持てず、事実を自分の考えのように書いたと考えられる。文章を書く目的や意図を明確にし、客観的な事実を取り上げ、取り上げた事実が自分の考えを裏付けるものになっているかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるように指導することが大切である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)**

URL : [24plang\\_idea\\_02.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_02.pdf)

([https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang\\_idea\\_02.pdf#page=11](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_02.pdf#page=11))

- ◎ 目的や意図に応じて、事実と感想、意見と区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するという課題について、**②**に登場する高山さんが情報を整理する場面と、個々の児童が記述する場面を取り上げ、伝えたいことを明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導事例を紹介している。

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎)と課題(▲)

○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる

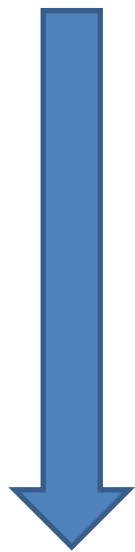
〔3二(1)〕(府の正答率 65.5%、全国の正答率 66.9%)

○人物像を具体的に想像することができる

〔3二(2)〕(府の正答率 71.0%、全国の正答率 72.5%)

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる

〔3三〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 72.6%)



### 解説

- ・〔3二(1)〕では、「2」と解答している児童 22.3%いる。暗示的な表現から心情を捉えることが難しかったと考えられる。低学年から系統的に指導し、描写を基に登場人物の相互関係や心情を捉えることができるようにすることが大切である。
- ・〔3二(2)〕では、「4」と解答している児童が 14.4%いる。オニグモじいさんの心情が、行動や会話によって暗示的に表現されていることから、「表現の効果」に着目していると考えたと考えられる。漠然としている人物像を明確にしたり、想像した人物像の根拠となる描写を明らかにしたりすることができるよう指導することが大切である。
- ・〔3三〕では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることはできている。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24plang\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_03.pdf)

([https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang\\_idea\\_03.pdf#page=14](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_03.pdf#page=14))

- ◎ 共通教材を読んで、心に残ったところなどを「読書の記録」に書くことを通して、どのように読めば、物語のよさを見つけられるかを考える指導事例を紹介している。



## 6 中学校国語科の授業改善のポイント

中学校 言葉の特徴や使い方に関する事項  
情報の扱い方に関する事項  
我が国の言語文化に関する事項

問題〔1三〕〔2二〕  
〔3二・三〕〔4一・三〕

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲意見と根拠など情報と情報との関係について理解している

〔1三〕(府の正答率 42.6%、全国の正答率 44.0%)

○具体と抽象など情報と情報との関係について理解している

〔2二〕(府の正答率 75.7%、全国の正答率 75.2%)

▲文の成分の順序や照応について理解している

〔3二〕(府の正答率 54.7%、全国の正答率 53.8%)

○文脈に即して漢字を正しく書くことができる(みちたりた)

〔3三〕(府の正答率 69.5%、全国の正答率 68.8%)

▲表現の技法について理解している

〔4一〕(府の正答率 55.6%、全国の正答率 54.9%)

○行書の特徴を理解している

〔4三〕(府の正答率 75.2%、全国の正答率 75.6%)

### 解説

- ・〔1三〕について、正答率 42.6%と低い。意見と根拠など情報と情報との関係についての理解に課題がある。何が意見で、何が根拠となる事実なのか。そして、何が意見につながる理由なのかを整理しながら指導することが大切である。
- ・〔3二〕について、正答率が 54.7%と低い。文の成分の順序や照応についての理解に課題がある。語順の違いによって表現がどのように変わってくるかを考える際には、文の成分の順序や照応などの文の構成について着目するように指導することが大切である。
- ・〔4一〕について、正答率が 55.6%と低い。表現の技法についての理解に課題がある。文学的な文章を味わう際に、描写の仕方や表現の工夫などに着目できるように引き続き指導することが大切である。

### <授業改善のポイント>

- ◎ 「知識及び技能」の各資質能力は、三領域の指導に絡めて発揮しながら獲得していくものである。言語活動と併せて、言葉のもつ働きを生徒自身も意識できるように指導することが重要である。

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる

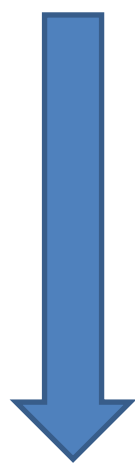
〔1ー〕(府の正答率 62.9%、全国の正答率 63.2%)

○資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる

〔1二〕(府の正答率 67.4%、全国の正答率 68.5%)

▲話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる

〔1四〕(府の正答率 45.3%、全国の正答率 44.7%)



### 解説

・「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均とほぼ同等である。

・〔1四〕では、無答率が8.6%と高い。このような問題に答えられるようにするためには、生徒に同様の学習を経験させておくことが必要である。何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点の意識、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。また、話合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。自分の考えをまとめることができるようにすることも大切である。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24mlang\\_idea\\_01.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_01.pdf)

([https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang\\_idea\\_01.pdf#page=11](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_01.pdf#page=11))

- ◎ 「エコーチェンバー現象の資料」を用いて、話合いの話題や展開を捉え、発言を結び付けて自分の考えをまとめる事例が紹介されている。自分の考えの基になった発言や話合いの内容について整理して述べるように指導するとともに、自分の考えが話合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかを振り返る指導が重要である。

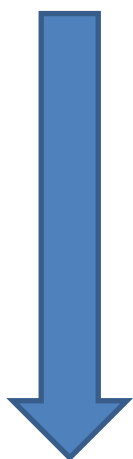
**全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)**

◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる

〔3一〕(府の正答率 81.7%、全国の正答率 81.4%)

▲表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる

〔3四〕(府の正答率 50.4%、全国の正答率 49.3%)



**解説**

・「書くこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っている。

・〔3四〕では、無答率が 12.4%と高く、正答率が 50.4%と課題がある。このような問題に答えられるようにするためには、生徒に同様の学習を経験させておくことが必要である。物語を創作する場面において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうか問われている。用いた語句や表現がねらいに照らして、言葉の機能としてどのように働いているか、確かめながら学習活動を進めることができるように指導することが大切である。

**<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)**

URL : [24mlang\\_idea\\_03.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_03.pdf)

([https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang\\_idea\\_01.pdf#page=11](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_01.pdf#page=11))

◎ 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する事例が紹介されている。学習の際には、個人によって進度が異なることが想定されるため、文章を書く際に、1人1台端末の音声入力機能を活用したり、書いた文章を自他で読み合って参考にできるような機会を随時設けたりするなど、個々の生徒が自分で学習の進め方を調整できるようにする指導が重要である。

### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎○)と課題(▲)

▲文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる

〔2一〕(府の正答率 34.7%、全国の正答率 36.3%)

○文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる

〔2三〕(府の正答率 64.7%、全国の正答率 64.5%)

▲目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる

〔2四〕(府の正答率 43.7%、全国の正答率 42.6%)

▲短歌の内容について、描写を基に捉えることができる

〔4二〕(府の正答率 47.2%、全国の正答率 48.3%)

### 解説

- ・〔2一〕について、正答率が 34.7%と低い。文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がみられる。図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えるように指導することが大切である。
- ・〔2四〕について、正答率が 43.7%と低い。目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がみられる。要約する際には、目的を明確にすることが重要であり、その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を性格に捉えて要約するように指導することが大切である。
- ・〔4二〕について、正答率が 47.2%と低い。短歌の内容について、描写を基に捉えることに課題がみられる。複数の作品を読み比べる学習の際の際には、共通点を見出し、作品を関連付けたり、共通するものの中で違いを考えたりするように指導することが大切である。

### <授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例」(令和6年度)

URL : [24mlang\\_idea\\_02.pdf](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_02.pdf)

([https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang\\_idea\\_02.pdf#page=12](https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_02.pdf#page=12))

- ◎ 伝える対象や目的を意識し、必要な情報に着目して要約する事例が紹介されている。この事例を活用する際には、特別活動や総合的な学習の時間など、他教科等の学習で生徒が要約した文章を取り上げることも考えられる。